

山陽新幹線 自動運転導入に向けた取り組みについて ～2030年代に自動運転の開始を目指します～

JR西日本では、「中期経営計画2025アップデート」において、「鉄道事業の安全性向上・持続的進化」を掲げ、「ハード・ソフト両面の改良による輸送品質・生産性向上」に向けた取り組みを進めており、その一つとして自動運転技術の導入を検討しております。

このたび、山陽新幹線で自動運転の開始を目指すこととしましたので、お知らせします。


1. 自動運転の実現に向けた連携について

山陽新幹線においては、JR東海様に技術協力をいただくことで、2030年代に自動運転(GOA2)の開始を目指して参ります。

2. 自動運転レベルと導入効果

- ・GOA2では、運転士がボタンを押すことで出発し、リアルタイムに演算を行うことで、所定時刻にて途中駅の通過並びに到着駅へ自動で停止します。
- ・運転士の業務量を削減し、駅発着時のホーム上の安全確認に注力できるなど、更なる安全性向上を実現することが可能となります。
- ・安定して電力消費量の少ない運転が可能となることで省エネ効果も期待できます

【参考：国土交通省資料より抜粋】

自動化レベル (IEC(JIS)による定義※)	乗務形態のイメージ ([]内は係員の主な作業)
GOA2 半自動運転 STO	 運転士[列車起動、緊急停止操作、避難誘導等]

鉄道の乗務形態による自動化のレベル

GOA : Grade of Automation



東海道新幹線の自動運転走行試験
(提供：JR東海)

今回ご案内の取り組みは、SDGsの17のゴールのうち、特に9番に貢献するものと考えています。



JR西日本グループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

